

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200040		
法人名	特定非営利活動法人 醍醐会		
事業所名	醍醐の森川崎グループホーム		
所在地	栃木県足利市川崎町2316番地		
自己評価作成日	平成22年4月30日	評価結果市町村受理日	平成22年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年5月19日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

渡良瀬川の堤防沿いの1100坪の広大な敷地の中で、四季折々の花や樹木に囲まれ、農園で栽培されている野菜を使って、毎日の献立を立てて、食事を提供しています。家族会が組織され、春秋の旅、敬老会やクリスマス会等で運営推進会議がリンクした形で開催されています。町内会の活動にも積極的に参加し、特に毎年開催される夏祭りには日頃から、この施設にご協力を頂いている300人を越える地域住民の人々やボランティアの人々等に参加して頂いています。そうしたイベントを通して、又毎日の生活に於いても、各々の利用者の特性を生かした介護の取組みを最重要課題と位置づけて、「人に優しい施設」を目指し、利用者へ「ここが私の家です。」と言って頂けるように普通の生活の場を提供することを大切にしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは足利市南部の渡良瀬川近くの住宅地と畑に囲まれた閑静な場所に位置している。ホームの敷地内には農園、バラ園、行燈などがあり、専任の職員を配置している他、入居者や近隣住民の助言も参考に「ここに入居できてよかった」と思ってもらえるように環境整備に努めている。自治会に加入しており、町内会の夏祭りや公園の草取り等への参加やホームでの行事にも地域住民を招待している。また、運営推進会議に自治会関係者の参加があり、意見や助言をもらう等、地域との交流を大切にしている。ホームでは家族会も発足しており、敬老会やクリスマス会等の行事には家族への参加も呼びかけ、その際に家族からの意見や要望の確認に努める等、家族との関係づくりにも力を入れているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての活動、グループホームとしての活動を意識し、地域に根ざした運営をする為に毎月行なわれる管理者と職員、全員が参加する定例会議を開催されている。	認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対し、家庭的環境のもとで日常生活の介助を通じて安心と尊厳のある生活を営むことを支援していく事を運営方針に掲げており、毎月の定例会や朝礼等で方針の確認を行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に回覧板を届けること等を含め、積極的に利用者を含めた形で町内会の事業に参加し、事業所でも開催される各種イベントを通して地域の一員として自覚させるようにしている。	自治会に加入し、町内会主催の夏祭りや公園の草取り等の行事に参加すると共に、ホームで開催する行事にも地域住民を誘っている。また、近隣の方から野菜の差入れが毎日のように有り、気楽に訪問できる関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が利用者と共に積極的な町内会活動に参加し、管理者は、町内の事業に参加する度に認知症の理解や施設の関わり方を述べる機会を与えてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議委員に日常も含めて、積極的に事業所で開催されるイベント等に参加して頂き、運営推進会議開催時、当ホームの外部評価等を公開し、それについて討議し、改善点がないか、積極的に意見を吸い上げるようにしている。	会議には自治会、市職員、家族会、入居者等のメンバーに加え、今年度から消防署員等にもメンバーに加わってもらっている。会議ではホームの状況報告や地域からの情報提供に加え、火災や災害時の対応方法についての話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当ホームの運営推進会議の委員である市職員やその他の市職員とも信頼関係を築き、昨年より、協力体制が取れるようになった。	運営推進会議の参加やケアサービスの相談等により、これまで以上に連絡体制が密接になってきている他、市の指導もあり市内の他のグループホームと相互訪問を実施する等、協力関係が築かれてきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者と職員、全員が参加する毎月開催されている定例会議に於いて、身体拘束の定義や具体的な行為を挙げて、話し合いの機会をつくり、メディスンロック等についても取り組んでいる。	以前に無断で近くのコンビニに出かけたり、帰宅してしまった入居者もいたが、玄関は日中及び職員が少なくなる時間帯以外の施錠はしていない。身体拘束防止に向けた取組みは定例会議等において職員間での共通の理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員、全員が参加する毎月開催されている定例会議に於いて、高齢者虐待についての勉強会を行い、その防止に努め、虐待があった場合、その通報義務等についてまでも討議したことがある。		

醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、地域福祉権利擁護事業を利用している利用者がいた為、十分に理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の利用者や家族との契約の締結時、必ず管理者、計画担当責任者又はそれに相当する職員担当して十分に説明するようにし、理解・納得を図り、改定の際は、当ホームで組織されている家族会の総会に於いて説明会を行なった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議と家族会等をリンクさせて、時間をずらして開催し、相互に交流の機会を設け、個々に開催された時に、それらの意見・要望を吸い上げて、毎月開催される定例会議に於いて管理者・職員が討議して、運営に反映させている。	運営推進会議開催の当日に家族会を開催し、その場で家族からの意見等を聞いている。また、重要事項説明書には苦情受付担当職員の名前や携帯電話番号を明記しており、常時、意見等を表わせる体制となっている。家族から出された要望等については職員間で話し合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行なわれる管理者と職員、全員が参加する定例会議を開催し、運営や個々の利用者に関して討議している。	定例会議等で職員からの提案や意見を聞いており、職員から管理者に意見を出しやすい雰囲気になっている。これまでも洗濯機、乾燥機、徘徊探知機、ナースコール等についての購入要望に基づき購入するなど、職員の提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、法人の三役会や理事会等に於いて各事業の給与水準等の意見を吸い上げて、定例会議に於いて職員が要望する介護しやすい、可能な限り福祉機器、必要な日常生活機器・用品の情報を得て、その充実を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、個々の職員ケアの力量を把握し、毎月開催される定例会議に於いて勉強会を行い、法人外の研修に積極的に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栃木県グループホーム協会、栃木県小規模ケアネットワークに所属し、管理者は、職員がそこで開催される研修会、勉強会等に積極的に参加するようにし、他の事業所との交流を進め、他の事業所の良い点を取り入れるようにしている。		

醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	殆どどの利用者が併設される認知症専用デイサービスの利用者であり、既に本人の安心の確保は、確立されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	殆どどの利用者が併設される認知症専用デイサービスの利用者であり、既に家族の安心の確保は、確立されている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際し当ホームでは現在、特養ホーム等で横行する「抱え込み」は、絶対に行なわない。介護保険の基本的制度、他のサービスの利用についても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者の出来る事は、見守り、出来ない事は、職員と共に行い、全く出来ない事は、職員が代行するといった介護を基本にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料の支払いは、持参を原則としていて、本人と家族の絆が切れないようにし、家族会を組織し、家族のイベント等の積極的参加を促し、職員と共に本人を支えていることを認識して頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に「ここが私の住まいです。」と認識して頂くようにし、親戚や知り合い等との面会を積極的に受入れている。又出掛ける際は、馴染みの場所等を訪れるようにしている。	入居前に自宅のトイレの位置を確認し、居室の配置を考慮したり、知り合い等の来所には積極的に支援しており、入居前の生活が継続できるように努めている。また、市内の公園等、入居者の馴染みの場所に出かけるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように洗濯たみは毎朝皆さんで協力して名前別に仕分けることを行ったり、車椅子を押し上げる等		

醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在も重篤のよる入院の為、退居した利用者を退院後、特養ホーム入所待ちをデイサービスとインフォーマルの宿泊事業で支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どう暮らしたいかは本人に何度も確認し家族にも伝え生活支援をしている。ドライブに行きたい等の要望を聞き叶えているが困難な場合は日にちをずらす等する又代替を考えている。	一人ひとりの入居者に対して職員の担当制を取っており、常に本人の意向を確認し、できるだけ深く係わるようにして本人の意向の把握に努めている。また、外出においても本人の希望により、近くの足利フラワープークに出掛ける等、本人の希望に沿う支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまで利用していたサービス事業所や家族より情報提供お願いして計画に組み込み、環境を変えないケアを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック等からその日の個々の体調をみて、状態に合わせた過ごし方を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で課題と感じた事は職員間で十分検討し、家族にも相談して本人の暮らしやすさを最優先に考え計画作成している。	介護計画は入居者の暮らしやすさを最優先しながら、家族との相談や職員の気づきも取り入れながら作成している。入居者の状態の変化を考慮して、半年から1年単位で見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画と計画にない記録を分けていて、朝の送り時にミニカンファを開き情報交換し今後支援内容とした方が良いかの検討を何度も重ねて次へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在も重篤のよる入院の為、退居した利用者を退院後、特養ホーム入所待ちをデイサービスとインフォーマルの宿泊事業で支援している。		

醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と利用者で夕食、又は出かける際、その先方に連絡を取るか、訪問して認知症の説明や理解を求め、協働して利用者が安心して利用できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態が大きく変化した場合は職員が付き添い受診し、安定してきた場合は受診先へコメントを作成し家族に持参して頂いている。	家族の希望を聞きながら、それぞれのかかりつけ医及び協力医療機関での受診を支援している。受診の付添いは基本的に家族に対応をお願いしているが、入居者の日々の状態を把握している職員が同行するケースも多くなっている。	今後、入居者の要介護度も上がり、重度化していく事も考えられるので、ホームとして各医療機関との連携を更に深めていくことを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の送り内容を、看護職に伝え受診時はスムーズに受診できるように、又適切な処置をすることにより快適な暮らしが出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	後方支援病院と協力契約を締結し、入院先に職員、その他利用者のお見舞い訪問は、勿論のこと、管理者又は計画担当責任者、それに同様の職員がその病院を訪問し、担当医師と経過等の情報を交換するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会に於いて、ターミナルケアについての医療行為による当ホームの機能の限界を説明を行い、主治医の往診を基盤にして、職員と家族と既にターミナルケアを経験しています。	家族会では終末期等のホームでの医療面における対応の限界を説明している。重度化や終末期については、家族の希望があれば出来る限り、ホームで対応する方針であり、今後も対応方針を職員間で話し合っていく予定である。これまでもホームでの看取りは行われている。	今後、慣れ親しんだ当ホームで終末期を迎えたいと希望する入居者や家族が増えてくる事も予想される事から、より一層医療面の知識を深めると共に、更に医療機関との連携に取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設されているデイサービスセンターの看護職よりその時々に応じ適切な指導にて身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は、年2回、避難訓練は、年1回行っている。そうした訓練に際し、同町内会の運営推進会議の委員に参加して頂いてもらっている。又夜間を想定した訓練も行っている。	定期的に消防訓練や避難訓練を実施しており、居室のカーテンは難燃性の物を使用する等、災害対策に努めている。また、ホームの駐車場を地域の災害避難場所に指定し、災害時用の水や食糧等の備蓄をしている等、地域とも有事の際の協力体制を十分に考えている。	夜間、職員が一人になった場合の対応について、日ごろから管理者や職員間で十分に話し合い、より万全な体制となることを期待したい。また、職員のみによる入居者の避難誘導の限界も踏まえ、近隣住民との協力体制の構築にも期待したい。

醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の現役だった頃の立場や自尊心を大切にされた言葉遣い、優しい笑顔での対応は常に心掛けている。	ホームでは入居者の人格や尊厳を大切にしており、職員は入居者に穏やかに接している。入居する際には家族に入居者の呼び方を確認しており、基本的には、苗字や名前に「さん」付けで呼んでいる。ホールのテーブルや座る位置等も入居者同士の人間関係に配慮した配置となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できるようにゆっくり時間かけてコミュニケーションを図ることで自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の心地良い場所や雰囲気や優先したり、朝今日は何をしたいかの希望を聞き伝えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には本人に洋服を選んで着たり化粧をして上げ、気持ち良く暮らせるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝はお茶入れ・おしぼり配り、昼は野菜の皮むき等、夕は器拭き・トレ拭きの協力をお願いしている。全て本人の体調や好みを考慮した上でお願いしている。	入居者は職員と一緒に食材の買出しに出掛けている他、下ごしらえや片付け等のできることを一緒に行っている。おせち料理も手作りである。職員は入居者と同じものを会話を楽しみながら一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食バランス良く摂れる様に見守りや声掛けを行い今までの習慣を崩さないように援助している。水分に関しては取れ時に飲めるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人のペースで自力にて口腔ケアを施行。磨き残しや困難な場合は出来ないところへの支援をしている。		

醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意を素早くキャッチすると同時に排泄記録よりパターンを知り出来るだけオムツにせず、誘導することで自立に向けている。	職員は入居者の動きから尿意や便意を把握するようにしており、排泄は出来るだけ自立できるようトイレに誘導している。オムツは家族が用意して届けてもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操・レク時の体操(腹部マッサージを含む)行ない又散歩に出て全身を動かしている。繊維の多い食事・水分不足には十分気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があり体調にも問題がなければ入浴日でなくても入れるようにしている。又入浴することで精神安定するのであれば入浴されている。その場合、デイサービスの浴室を利用することもある。	日曜日を除く毎日入浴できる体制になっているが、一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴している。また、同じ建物内の認知症対応型デイサービスのお風呂は温泉となっており、希望する場合には入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出行事等でいつもより疲労感が見られる場合は自室にて横になって戴いたり早目の入眠を促す。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更・増量に関しては状態観察と詳細な記録をしています。目的や副作用に関しては処方箋を個人のカードインデックスに入れいつでも確認できるような状態にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として生活の中で出来ることは協力をお願いする、気分転換に買い物に出かけ店の中を歩いたりボランティアによる歌や踊りで楽しめる時間の提供もしている。嗜好品は家族の面会時に届けて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には「今日はどこへ行きたいですか?」と皆さんに言葉掛けをして希望に沿った場所へ出掛けている。年に二度の小旅行には、家族の協力にて少し遠い場所へ出掛けている。	年2回実施している小旅行は隣接市町等に出掛けている他、日常的にも外食や散歩に出掛けている。また、敷地内には農園があり、ここでの作業等も入居者の楽しみになっている。	



醍醐の森川崎グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重篤化が進み、所持することは困難となっておりますが、買い物に行った際にはお支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話をかけられる状態になっている。手紙も同様です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室にはのれんを掛けトイレには解るカードを下げひと目で解るようにし、温度湿度は日に数回チェックして快適に過ごせるような環境を提供している。庭に咲いている季節の花を入居者に飾って頂きいつでも眺められる場所に置き、季節感が出るように配慮している。	共用空間には季節毎の飾り付けや季節の花等を飾り、季節感を意識した空間づくりをしている。入居者はホールのソファ等でゆったりと過ごす事が多く、一人ひとりが思い思いの場所で自由に過ごせるように配慮している。空調は換気システムにより、空気のみや不快な臭い等は感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	朝陽の当たる部屋には気の合った人達が集まれるように椅子を並べ準備して置いたり、独りでゆっくり過ごせるように廊下に椅子とテーブルを置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談して使い慣れたものを自室に入れて貰い住み慣れた環境を変えないように配慮しカーテンも本人の好みの色に合わせ居心地の良く生活できるようにしている。	入居時に本人や家族に使い慣れた家具や小物類の持参を促しており、各居室には筆筒や仏壇などの他、使い慣れた品々が持込まれており、各々が居心地良い居室と成るよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の失見当のある人には絵や文字で解り易いカードを作り、又好きな席を自分で選べるようにしており、どの席も安定したものになっている。		